



# 第11章 経過観察

## 1 方向性

史跡野火止用水の保存管理・活用・整備は、将来にわたり継続的に取り組む必要がある。しかし、日常的な維持管理や史跡の活用・整備を行う過程において様々な問題が生じたり、今後も様々な要因によって史跡を取り巻く環境が大きく変化することも予見される。そのため、各事業と本計画の整合を定期的に点検・評価し、社会情勢の変化や住民ニーズ、新たな課題を把握した上で、事業計画の見直しや改善等を図り、計画を修正する必要がある。

こうした経過観察は、PDCAサイクルにより市教委が主体となって実施し、点検・検証の結果に基づいて事業改善・計画修正を行う。

## 2 経過観察の方法

### (1) 進捗管理の方法（PDCA サイクル）

#### ①計画（Plan）

- ・計画の策定と目標設定

#### ②実行（Do）

- ・本計画に基づく事業の実施

#### ③評価（Check）

- ・本計画に基づく進捗状況の確認
- ・本計画に掲げる基本方針と事業の実施効果の整合性の検証
- ・事業実施により得られた情報の分析と、社会情勢との適合性の検証

#### ④改善（Action）

- ・各事業の成果検証と分析
- ・計画の更新・見直し

### (2) 点検項目

進捗管理の具体的な方法として、点検項目及びその内容の例を以下に示す。なお、評価・分析は専門家を含む委員会等において行い、その結果は市民に公開するものとする。また、点検の実施時期は、次年度予算や組織体制に反映させることができる時期に行うことが望ましい。



表 15：点検項目例

	点検項目	点検内容
保存管理	史跡の維持管理	史跡内は地区区分と取扱方針に基づき維持管理されているか
	史跡の定期点検	法面・築堤等の経年劣化の状況は把握されているか
	追加指定と公有地化	史跡の追加指定・公有地化の取組を行っているか
	史跡範囲の周知	史跡周辺の環境保全のため、所有者や市民、関連機関との合意、連携は図られているか
	調査・研究の継続	野火止用水に関する調査・研究が継続して行われているか
活用	学校教育との連携	学校教育の場で副読本や出前講座などは活用されているか
	大学等との連携	大学での講座や研究機関との連携事業は行われているか
	生涯学習の場での活用	講座や現地見学会の開催など、生涯学習の場として活用されているか
	地域活動	地域コミュニティの活動促進に寄与しているか
	情報発信	史跡の本質的価値を伝える情報発信を行い、史跡に関わる人々と価値を共有できているか
	地域の魅力	野火止用水が周辺に与えた影響を、地域の特徴として市民が把握し、魅力的な資源と捉えているか
整備	整備の方法	保護を前提とした整備が行われ、史跡の本質的価値がわかりやすく明示されているか
	住環境・景観への配慮	史跡周辺の住環境や景観に配慮した整備が行われ、目指すべき姿を実現することができているか
	見学環境の整備	歩道や柵の経年劣化への対応や、樹木剪定・草刈り等は適切に行われているか
	検証を踏まえた再整備	法面や護岸の整備、説明板や案内板の設置位置と内容等、過去に実施した整備の検証を踏まえて、適正な再整備が行われているか
	史跡の情報拠点の整備	歴史民俗資料館での展示や資料収集等、史跡の本質的価値を伝え、学び、理解する場となっているか
	情報発信の拡充	幅広い対象に向け、リーフレットやウェブサイト等の更新・多様化は行われているか
運営体制	管理体制の構築	市民、地権者、事業者、大学等による地域連携組織が維持されているか
	庁内関連部局の連携	庁内の他部署と事業目的や情報の共有、連携が取られているか
	様々な機関等との連携	市内の小・中学校や大学、県、関係自治体など、様々な機関との連携が図られているか
	市民との連携・協働	町内会・ボランティア団体などの活動を支援し、活動状況を把握しているか
	人員・予算の確保	必要な予算や人員を確保し、適切に配分できているか